令和４年度　**蘭越小の教育**

学びに向かい、心豊かでねばり強い子の育成
～かしこく　やさしく　たくましく～

1　経営の基調

我が国は、知識基盤社会への新たな進展やグローバル化の進行とともに、類を見ない速さで進行する少子高齢化や人口減少問題等、先の予測が困難な時代を迎えている。このような激しい変化に対応し、持続可能な発展を実現できる社会への転換を図るために、多様性を基調とした「自立・共生・創造」をキーワードとする生涯学習社会の実現が求められている。

学校をこうした変化する社会の中に位置付け、その中核となる教育課程について、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていくという「社会に開かれた教育課程」を目指すべき理念として位置付けることとしている。

こうした中で、学校教育においては「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育むことを重視し、変化が激しく多様化が一層進行する社会を生き抜いていく資質・能力を育成するとともに、持続可能な社会の形成者を育てることが求められている。その実現のためには、子供一人一人のよさや可能性を引き出し、伸長することが教育の基本であることをおさえ、児童や地域の実態に即し、学びの質、量、深まりを求め、つながり、高め合い、子供たちの未来へとつながる教育を展開する学校経営を推進する。

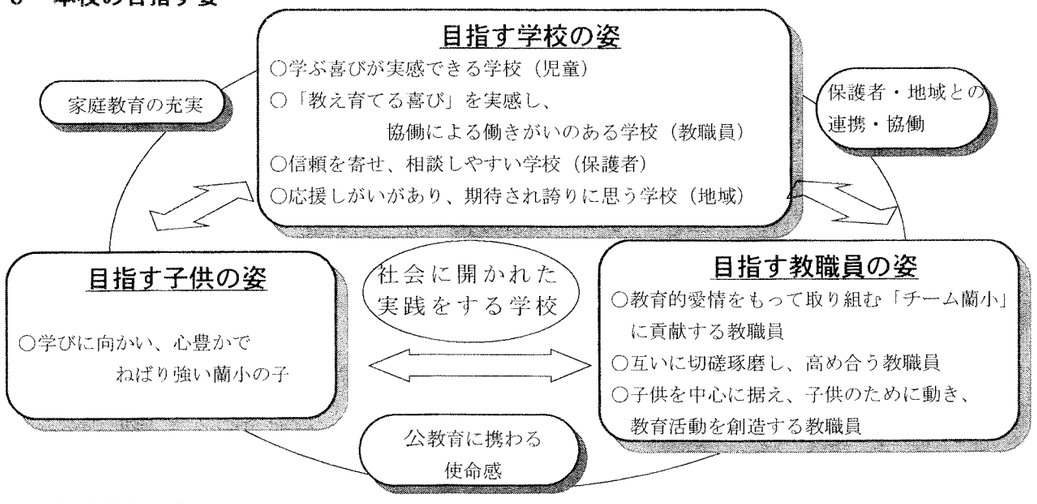
2　学校教育目標

◇つくり出す子（かしこく）
○創意・工夫しながら追求する　　○筋道の通った考えや正しい判断ができる
○進んで考え、計画的に解決しようとする　**◎人の話をしっかり聞け、自分の考えを発表できる**

◇助け合う子（やさしく）
◎友だちや生き物に対して優しい気持ちが持てる　○明るく、礼儀正しい行動をする
○集団の一員として、相手の立場や気持ちを考えて行動する
○お世話をしてくれた人に感謝する

◇たくましい子（たくましく）
○自分の健康に関心を持ち、進んで運動する　**◎最後までねばり強くやりぬく**
○望ましい生活習慣を身につける　　○身の周りや学校をきれいにし、安全な環境をつくる

3　本校の目指す姿



4　学校経営方針

開校１２５年目を迎え、これまでの蘭越小の歴史と伝統を継承し、より充実・発展・進化させるために、生涯学習社会を見据えながら時代の変化に対応した新しい学校づくりに努める。学校教育目標達成のために、児童一人一人のよさや可能性を伸ばし、“かしこく、やさしく、たくましい子供”の育成を目指し、学びに向かい　高め合う力を育てる学校教育を推進する。

そのため、今日的な教育課題や本校の児童の実態を的確にとらえ、全教職員が互いに理解し信頼し合い、「教育のプロ」としての専門性、創造性を大いに生かし、目標に向かって共通認識、共通実践を行う「チーム蘭小」として創意ある教育活動を組織的に展開する。

主体的、対話的で深い学びを通して「問題を発見し、多様な他者と学び合い、高め合い、主体的に問題を解決していく意志ある子供」へと成長させなければなりません。

子供の学びに向かい　高め合う力を育てる学校教育の推進

そのために、
(1)　全教職員が経営参画意識をもち、積極的・創造的な協働体制を確立し、柔軟かつ変化に対応した学校づくりの推進
(2)　子ども主体の授業展開と温かい言葉がけやよさをほめる授業の推進
(3)　児童の健全な成長に役立つ、よりよい環境の学校づくりの推進
(4)　豊かな人間性と指導力の向上を目指し、個人研修や校内研修に努めるとともに、より一層の専門性を高める校内研修の充実や校外研修への積極的な参加
(5)　保護者、地域との連携を一層深め、地域の特性を生かした教育活動の推進

5　重点目標

知識・技能を確実に身に付け、
学び合い 高め合う子の育成

6　中期経営目標

学校教育目標の達成のために中期的経営目標を設定し、その実現を目指し、自己研鑽に励むとともに、相互に高め合う活力ある学校体制の確立に努める。
(1)　確かな学力を育む**教科横断的な視野に立った教育課程**の推進（知）
(2)　**思いやりの心**を持ち、人との出会いやかかわりを大切にする子の育成（徳）
(3)　進んで運動に取り組み、**考え行動する**子の育成（体）
(4)　郷土の素晴らしさを知り、**郷土を愛する**子の育成（地域に根ざした教育）
(5)　**教師と児童の信頼関係**を基調とする学年・学級経営の充実（学校生活の基盤づくり）

7　学校経営の指針

(1)　学校の教育目標の具現化を目指す学校体制の確立と運営
①経営方針・重点目標の共通理解に基づく経営参画意識の高揚に努める。
②分掌間の連携を密にした、校務運営委員会を中核とした機動的な組織体制の確立に努める。
③全教職員の共感的指導観に基づく生徒指導体制の確立に努める。
④特別支援教育の推進・充実、コーディネーターの中心とした支援体制の活性化を図る。

(2)　教育目標の具現化を目指した学年・学級経営の充実
①生命や人権を尊重する心、思いやりの心を育てる学年・学級経営の充実に努める。
②学級経営等の交流の活性化を図り、共通理解に立った生徒指導に努める。

(3)　教職員としての専門性の深化を図る研修
①研修内容を明確にし、日々の授業に活用できる実践的な研修の確立に努める。
②学校内外における現職研修への積極的参加とその成果の活用に努める。
③実践研究を様々な形で公開し、より高い指導観、指導技術の確立に努める。
④特別支援教育の理念や在り方を学び、個の特性に応じた教育の研修に努める。

(4)　地域と連携し協力し合う学校づくりの推進
①保護者、学校運営協議会、学校図書館巡回派遣事業等、地域との連携協力を図り、開かれた学校づくりを推進する。
②家庭訪問、学級懇談や個人懇談週間、学校便り、学級通信等を有効に活用し、保護者や地域との双方向の連携に努める。
③安全安心メールの有効利用に努める。
④学校の歴史、役割を考えながら、町民として郷土を知り愛する気持ちの育成に努める。
⑤日本や北海道についての理解を深め、外国との様々な関係にも興味や関心が持てる子供の育成に努める。

(5)　小学校間の交流体制の充実と幼小・小中高連携の推進
①町内２校の小学校同士の連携を強める。
②幼小・小中高の連携した教育を促進する。

8　教育課程実施の具体

〈確かな学力の育成〉

学びの質を高めよう。知っていること（知識）も大切だが、学び合い、高める力を身に付けさせよう。また、それを使える技能を身に付けさせよう。これらを思考ツールとして思考力、判断力、表現力といった学力を形成させよう。学習活動を通した面白さや達成感が、主体的に学ぶ意欲を育てる。一連の学びで獲得したことを対話的な活動で深め、ふりかえりでより深め、他教科等や実生活に活用できることを子供たちに実感させてこそ、子供が学ぶ価値や魅力を

見いだすことができる。

(1) 創意ある教育課程の編成・実施と評価の工夫
①調和のとれた創意ある教育課程を編成・実施・評価・改善する。
②基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用により、思考力・判断力・表現力の育成に努める。
③地域の特色を生かし、探究的な活動を取り入れた総合的な学習の時間の推進に努める。
④特別の教科「道徳」の充実と関連する教育活動を強化する取組を進める。
⑤外国語活動、外国語の学習内容、学習環境の充実に努める。
⑥タブレットの活用とプログラミング的な思考を育てる教育活動の充実に努める。
⑦体験的活動の充実と言語活動を重視する。

(2) 専門的力量を向上させる「研修活動」
①開かれた研修と子供に資質・能力を育成する授業実践を積み重ねる。
（情報交換、公開授業の実施、外部講師等の招聘）
②校内研究の活性化と検証、公開、改善、蓄積、継承
（全体研修、ブロック研修、ミニ研修）
③積極的な研修会、研究会への参加、還流
（教材分析、教材研究、指導技術、授業展開等々の力を身に付け、授業改善を図る）

(3) 育てたい資質・能力の育成を目指す「学習指導」
①主体的、対話的で深い学びを実践する授業改善とチャレンジテストの活用
（主体的に学習に取り組む学びの自立化）
②わくわく学び、高め合う子を育てる授業の構築
③一人ひとりの学習状況に応じた支援の工夫（支援員の活用）
④単元を基本につながりを意識した１単位時間を大切にした授業づくり
⑤補充的・発展的な学習の推進（学習サポート等）
⑥花一絵図書館と連携した読書活動の充実

☆基礎学力（知識・技能）の確実な定着とそれを基にした思考力・判断力・表現力を育成します。
＊漢字の読み書きを定着させ、文中で活用できる力を付けさせます。読みは100％全ての児童に定着させます。
＊整数・小数・分数の四則計算は100％全ての児童に定着させます。
＊教科横断的な視点に立った資質・能力（言語能力、情報活用能力等）の育成に努めます。
☆学習習慣の確立を目指す家庭学習の定着を目指します。
＊年間100日以上クリアを全員の目標にします。
＊毎日家庭学習を続ける子を80％以上にします。

〈豊かな心の育成〉

(4) 自分も相手も大切にする道徳的実践力を育む「道徳教育」
①体験的な活動等を通し道徳的価値の内面化(深化)を図る特別の教科「道徳」の充実
②他者意識や多様性の受容、共生を育む道徳的実践力を育てる指導の工夫
③思いやりや自尊感情を高める「心の教育」「命の教育」の推進
④朝読書は月・水・金、朝学習は火・木に行う
⑤家庭・地域との連携と人材活用

☆挨拶、返事、言葉遣い等の基本的な生活習慣、態度を育成します。
（児童アンケート・挨拶90％以上）
＊お客さんにもさわやかなあいさつが言える子に育てたい。
＊しっかり返事ができる子に育てたい。
＊「ありがとう」が言える子に育てたい。
＊正しい姿勢を保ち、学習・生活できる子に育てたい。（立腰を意識させる）
☆特別の教科「道徳」の質的な充実と実生活への実践化を進めます。
＊子供に考え議論させる場を設定し、自分の生活と結びつけ正しく判断し行動できる子に育てたい。
☆子供の琴線に触れる教育相談を実施し、保護者との連携・校内指導体制の強化を進めます。
＊保護者・地域と協働で校内外トラブル・いじめ未然防止に対応する取組を図りたい。
☆校内外の安全点検の実施と問題等の共通認識・改善を随時、迅速に進めます。

〈健やかな体の育成〉

(5) 自己理解を促し、主体性、協働性、規範性を育む「健康教育」
①体育的活動を通し、主体的に運動に親しむ意欲や協働する態度、規範意識の育成に努める。
②食育指導を通して、健康に関する基本的な生活習慣指導の徹底に努める。
③自他の生命を尊重し、安全な生活を送るための意欲の向上を図るとともに、安全教育の充実

に努める。

☆体力向上を目指した体育的活動の企画・実施と日常の体育的活動を継続的に取り組みます。
＊個人目標の設定やスポーツテスト結果を受けた体力向上への取組を進めます。
＊自己内省による考える力、チームワーク等の協働する力、ルールを理解し守る規範性を育てます。
☆自分の体の成長や健康に関心を持ち、望ましい生活をしようとする態度の育成を図ります。
☆生活リズムチェックシートを活用し、基本的な生活リズムの確立や朝ご飯をしっかり食べて登校するように保護者への啓発を行います。（朝食をしっかり食べて登校する子、９０％以上）
☆食育指導を通し、地産地消や栄養バランスについての知識や健康についての関心を高めます。

(6) 自主的・実践的な態度を育み、自己実現を目指す「特別活動」
①学校生活や学級の課題を見いだし、合意形成や意思決定、協働する学級活動の充実
②異年齢集団で協力し、自主的・実践的に問題解決に取り組む児童会活動の充実
③集団への所属感や連帯感、公共の精神を養い、よりよい学校生活を築く学校行事の充実

(7) 受容と共感・危機管理の「生徒指導」
①生徒指導の機能（自己決定・自己存在感・共感的な関係）を生かした教育の推進
②自己有用感を高める指導の推進
③積極的な子供に関する情報共有、交流と教育相談週間の実施
④教育委員会、関係諸機関との連携強化

(8) 家庭・地域と創る「健康・安全指導」
①健康な心身を育むための基本的生活習慣の励行、確立を目指す「健康・安全教育」の充実
（挨拶、早寝早起き、うがい手洗い、歯磨き、体力向上の取組　等）
②地域と連携した安全教育の充実と校舎内外安全点の実施
③児童の心身の発達に即した保健指導の充実
④栄養教諭と連携した「食育」の推進

(9) ノーマライゼーションの理念に立った「特別支援教育」
①特別支援教育の推進と一層の充実、校内体制の条件・環境整備
②保護者との合意形成、保護者・地域・関係機関との連携
③特別支援教育についての研修の促進

(10) 望ましい「学習環境・生活環境づくり」
①各教室等校舎内外の特別支援の視点に立った環境整備、整理整頓
②学習活動の足跡や児童の学習や生活に生きる教育環境づくり

(11) よきパートナーシップをめざす「家庭・地域・他校との連携」
①積極的な学校教育活動の情報提供
・学校便り、学級通信、各種通信の発行、掲示
②情報の共有を含め対話を重視した双方向の関係づくり
③授業参観、学級懇談、家庭訪問の充実
④学校教育と社会教育、社会体育等との連携協力
⑤幼保小連携、小小連携、小中連携、小中高連携の推進
⑥コミュニティースクールの充実

(12) 教職員が心身ともに「元気」であるために
①教職員の心身の健康を保持するメンタルヘルスの保持
・好ましい人間関係の構築、早期相談、他
②教職員相互の協働意識の充実（組織貢献や相互補完、共助の精神）
③温かく働きやすい職場の雰囲気づくりと校務支援システムの活用（働き方改革）
④ワークショップ型の研修により、業務の合理化、効率化の推進（働き方改革）